

はじめに

國學院大學教務部長
柴崎 和夫

大学は、様々な意味で「学ぶ」ための場所です。そして大学には、様々な意味での「学ぶ場」があります。それらは、講義という教室中心の場、友人はじめ多くの人たちとの語らいの場、課外活動の場、ボランティア活動の場、美術館や博物館、旅行や懇親会の場などなど、多種多様です。大学に入学した皆さんは、自らの意思と興味に基づいて、それらの場の中から何を選ぶかを自由に決定することができます。大学で4年間過ごしたとき、そこには自分だけの学修の歴史（自分史）を作り上げた、他人とは違う一人の人間が存在しているでしょう。そして、國學院大學の教員と職員は一丸となって、自らの道を選んだ学生の皆さんを支援していく体制を整えています。

けれども、現実的には、大学を卒業するためにはある一定の単位を修得する必要があります。皆さんが手に取っている『履修要綱』には、大学を卒業するのに必要な事柄、注意する点などを記述してあります。つまり、『履修要綱』は大学が皆さんと交わす「契約書」であると同時に、単位修得のための「基本的ルールブック」なのです。単位修得には、皆さんが所属する学部・学科の専門科目、全学共通の教養総合科目、教員免許などの資格を取得する資格課程科目、それぞれから必要科目を修得することが必要です。もちろん、ただ単に単位を取れば良い、というわけでもありません。科目には必修、選択必修、(自由)選択、の区別があり、間違っただけで履修すると卒業が危うくなることもあり得ます。自らの学修計画(何を目的とするのか)をしっかりと考えて、履修科目を選択してください。その際に必要な事柄がすべて記載されているのが、この『履修要綱』です。間違いも自分の責任、というのが大学ですから、適宜参照することを忘れないでください。科目で学ぶ内容、授業計画、成績評価の方法などは、「シラバス」に書かれていますので、履修計画を作るときに事前に参照してください。学部・学科が用意しているガイドブックも参考になります。いずれにしても、体系的・有機的な履修こそが、4年間の大学生活を有意義に過ごす鍵になります。

國學院大學には神道精神に基づく建学の精神が存在します。神道精神に基づく「主体性を保持した寛容性と謙虚さ」を持つ個人として、日本の伝統文化を学び、さらに日本の外にも目を向けることを忘れず、つねに進取の心を持ち続ける人となる、ことを応援し続けるのが國學院大學です。先に述べたように、國學院大學の教職員は一丸となって、皆さんの夢や希望がかなうよう支援します。自己責任が第一ですが、わからないことや不安なことがあったら、遠慮無く相談してください。

なぜ國學院大學を、皆さんが入学した学部・学科を、目指したか。振り返りを忘れること無く、しかし前を向いて積極的に自ら動く心を持ち続けてください。私たち教職員は、皆さんの國學院大學での学生生活が実りある豊かなものとなることを祈ると同時に、できる限りの支援体制を整えていきます。